

令和3年度 県立波崎高等学校自己評価表

目指す 学校像	・互いを思いやり、助け合える強いチーム（教職員組織）を目指す。 ・生徒、保護者、地域の信頼に応え、生徒の夢や希望を実現できる学校を目指すとともに、地域を愛し、地域に貢献する人材育成を目指す。 ・学習活動や部活動、HR活動等の学校生活をとおして、心身ともに健やかな社会人としての資質、素養を兼ね備えた人材育成を目指す。			
令和３年度の成果と次年度の課題		重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況
学習指導面 落ち着いた環境で朝学習や授業が実施され、各教室に電子黒板が導入されるなど、学習方法や環境も新しいものが取り入れられた。さらに学力を向上させるために、タブレット端末を活用した授業方法や課題の与え方についての研究や改善が求められる。 生徒指導面 基本的な生活習慣が身に付いており、あいさつについて外部からの評価が高い。自ら考え、行動する自主自立の気持ちが課題である。また、生徒指導は共通理解のもとで行わなければならないが現在では不十分である。 進路指導面 進路ガイダンス、キャリア教育等の取り組みや、継続的な進路指導の結果、ほぼ全員の就職が内定した。大学進学者も増加し、国公立大学にも合格者が出ている。個別の特性に合わせた指導で、生徒の学習意欲をさらに向上させ、対外競争力を高めることが今後の課題である。 特別活動面 本年度の生徒部活動加入率は90%以上を保っている。また、運動部、文化部ともに対外活動が徐々にできるようになっており、今後とも継続して活動できるよう支援したい。キャリアパスポートの使用を含め、新しいことにも取り組みたい。 広報活動及びPTA活動面 学年だより等を定期的に発行し、HP等でも情報を配信できた。文化祭や視察旅行等が実施できなかったが、次年度に向けてあたらしい行事を計画したい。		【学習指導の充実・強化】 分かり易い授業展開を通して、一人一人の自ら学ぶ意欲を高め、基礎学力の向上を図る。	①公開授業や教科指導に関する校内研修を定期的（年２回）に実施し、学習内容等の精選に努め、創意ある授業を展開する。 ②家庭学習の習慣化を図るため課題を与えるなどして、学力を向上させる。 ③英検・漢検等の資格試験の受験者・合格者を増加させる。	4
		【生徒指導の充実・強化】 基本的な生活習慣を身に付けさせ、生徒の自立及び自律を図る。	④学校の教育活動全体を通して、基本的な生活習慣や規範意識を醸成する。 ⑤教職員全員の共通認識のもと、計画性のある校内生徒指導を定期的に実施することにより、高校生らしい生活態度を育てる。 ⑥外部講師による各種防止講話等を通じて、生徒の事故防止に努める。 ⑦家庭との緊密な連携により、問題行動やいじめ等の早期発見に努める。	5
		【進路指導の充実】 １年次より体系的に進路指導を推進し、早期に進路目標を持たせ、生徒全員の進路実現を目指す。	⑧職業選択や自己実現のために企業実習やガイダンス等を通して、望ましい職業観や勤労観を養い、主体的に進路選択ができるようにする。 ⑨生徒との面談や保護者との緊密な連携により、効果的な進路指導ができるようにする。 ⑩将来に生きる実技系資格取得を奨励し、進路意識を醸成する。	5
		【健康安全指導の充実】 体育や部活動等のあらゆる機会を捉えて、心身ともに健康で情緒豊かな生徒の育成を図る。	⑪生徒に応じた指導体制の確立と、指導計画の工夫により、魅力ある部活動を実践する。 ⑫ボランティアや奉仕活動などの社会体験活動を積極的に推進する。 ⑬健康安全についての意識を高め、事故の未然防止に努める。	5
		【その他活動の充実】 地域との連携を強化する。また、広報活動やPTA活動を通じて本校の魅力を積極的に発信する。 働き方改革を推進し、職員の資質、健康の向上を図る。 互いを思いやり助け合える強いチームを目指す。	⑭「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、地域との連携を強化する。 ⑮ホームページ、「学校便り」等を充実させ、最新情報を積極的に発信する。 ⑯保護者からの理解・協力を促進するため、教職員のPTA会合や行事へ積極的な参加を図り、PTA相互の交流を深める。 ⑰働き方改革を推進し、教職員の資質・健康の向上を図る。 ⑱互いを思いやり助け合える強いチームを目指す。	4

※達成状況：5（十分達成：100～80%）、4（概ね達成：79～60%）、3（あまり達成していない：59～40%）、2（達成がやや不十分：39～20%）、1（達成が極めて不十分：19～0%）

三つの方針		具体的目標		評価		次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) 心身ともに健やかな社会人としての資質、素養を兼ね備え、地域を愛し、地域に貢献できる人材(人財)の育成		4	4	きめ細やかな指導により、生徒一人ひとりがそれぞれの進路実現に向けて実践力を身につける。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 生徒一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育課程による、就職から大学進学までの進路希望実現		4		魅力ある教育課程の編成により、地域社会の信頼と期待に応える。
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 入学の段階から高い目的意識を持ち、自己の進路実現を目指し、日々努力する生徒		4		部活動や学校行事に積極的に参加する生徒の育成。
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価		次年度(学期)への主な課題
国語	学習習慣を定着させ、基礎学力の向上を図る。	・週末課題や月曜課題を実施し、家庭学習の習慣化を図る。		4	4	次年度の新一年生から新しい学習指導要領となるにあたり、単元ごとに3観点の評価をしていくことの情報共有を科でしていく必要がある。
		・週1回以上小テストを実施し、学習内容の定着と語彙力の向上に取り組ませる。		3		
	読解力、表現力を養う。	・丁寧に文章を読ませ、内容を論理的に読み取る訓練をさせるなど、読解力の充実を図るとともに、全ての学習活動の基盤となる思考力・判断力を伸長させる授業を展開する。		4		
		・表現教材の積極的な利用を通して、自分の考えを論理的に整理し、的確に表現できる能力を育成する。		4		
	主体的に学習する姿勢を養う。	・授業中や各種課題に辞書を引く機会を設け、分からない語句や事項について自ら調べる姿勢を養う。		4		
		・夏季休業中の読書感想文に加えて、読書レポート課題を年2回課し、本に接する機会を増やす。		3		
		・能動的な学習を促すことのできる指導法として、言語活動を取り入れた授業について、科内の研修を行い、授業の質的向上を図る。		3		
地歴公民	基礎学力向上・問題発見能力・解決する力を身につけさせる。	・基礎的な事象をしっかりと学び、その中から問題点を発見し、解決方法を自ら考え、見つけ出していく学習習慣を養う。		4	4	・新学習指導要領における3観点の評価をしていくことの情報共有をする必要がある。 ・ICTの活用のさらなる工夫が必要である。
		・資料を読み解き、考察・検討する態度を身につけさせる。		4		
	教科指導力の向上・質の高い授業の実践。	・視覚・聴覚等多方面からのアプローチにより、判断力や理解力の向上を目指す。		4		
		・生徒主体の活発な授業展開を研究し実践して、社会科学についての関心や意欲を高める。		3		
	現代人としての資質を養う。	・学力向上のための研修、相互参観授業の研修を年3回行う。		4		
		・現代社会との接点を見つけられるような授業を展開し、多くの社会事象を理解することにより自分の考えや意見を確立させる。(時事問題研究)		4		
数学	定期的な教科会を実施する。	・週1回の教科会を実施し、指導内容を密に話し合い、共通理解を図るとともに計画的な学習指導を行う。		3	4	・ICT機器を利用した授業を展開する。 ・新学習指導要領に合わせ、教科内での情報交換を密にする。
	課題提出率を90%にする。	・週1回放課後に補講を行い、適切な学習支援を行う。		4		
	数学検定の受験者・合格者を増加させる。	・数検対策課外を実施するとともに、進学課外等を通し受験を促す。		4		
理科	基礎学力の向上と学習習慣の確立を図る。	・ノートのメモ欄作成と振り返りシートの記入を徹底し、基礎学力の向上に努める。		4	4	・ICT機器を用いて指導の工夫改善。来年度以降ICTの活用が必須となるため、情報交換の機会を増やす。 ・実験回数を増やし、生徒の興味関心を引く。実験におけるICT活用も考えていきたい。 ・理科室の整理・整頓を行い、実験しやすい環境を整える。
		・副教材や自作教材、ICTを活用した課題を与え、その提出を徹底させることで生徒の家庭学習の習慣化を促す。各科目課題の提出率90%を目指す。		5		
	生徒一人一人に対するきめ細やかな指導を行う。	・生徒一人一人の興味、関心を引き出せるように、観察や実験の授業を月1回以上行う。		3		
		・ICT機器等を利用して、実験動画を見せるなど生徒の理科への興味関心を引きだす授業を展開する。		4		
		・観点別評価に基づいた指導を行い、指導方法の工夫・改善に努める。		4		
		・授業改善の一環として、生徒の主体性を高める授業について、相互授業参観を年6回以上実施し、自己研鑽および授業力の向上に努める。		3		
	安全管理と事故防止に努める。	・予備実験・事前調査を必ず行い、観察・実験の安全性を確保する。		5		
		・理科実験室の整理整頓を徹底し、安全で実験しやすい環境を整備する。		5		
・毒物劇物等の薬品の適正な管理と、廃液、廃棄物の適正な処理を行う。		5				

※評価基準：5(十分達成：100～80%)、4(概ね達成：79～60%)、3(あまり達成していない：59～40%)、2(達成がやや不十分：39～20%)、1(達成が極めて不十分：19～0%)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
保健体育	集団行動の徹底した指導を図る。	・集団行動を徹底することで、協力し責任ある行動をとる態度を培い、落ち着いた生活を送れるよう基本的生活習慣の定着に繋げる。さらに安全で安心した学校生活への理解を深める。	4	4
	基礎体力の向上に努める。	・体力テストなどを通じて自己の体力について理解させ、意欲的に体力を高めようとする習慣を育む。授業内で体力の向上に努めさせ、運動部の成績向上にも繋げられるように連携を図っていく。体力テストのD級の割合を減らす。	4	
	運動やスポーツの楽しさや喜び、達成感を体験させる。	・様々なスポーツを経験させ、それらについての基礎基本と安全についての理解を図る。また、グループ編成を工夫し、各自の目的に応じた指導を行うことで、運動の楽しさや集団で協力する喜び、技能修得の達成感を体験させることで、生涯スポーツに繋げる。	4	
	保健分野に関する学習への興味・関心を深める。	・教材や資料の活用方法を工夫し、理解しやすい授業を展開する。また、健康や安全、性教育等の保健分野への興味・関心を深め、正しい知識を身に付けさせる。そのために月1回以上のミニテストを実施する。また、積極的にグループワークを導入し自ら課題に対する答えを導き出す力を養成する。	4	
芸 術	芸術の幅広い活動に触れさせる。	・中学校での学習を踏まえながら、基礎・基本の定着を図る。	4	4
		・各分野の歴史に多く触れさせる事で、鑑賞の基本的能力を高めさせ、芸術的感性の深化を図る。	4	
		・家庭でも芸術に触れる機会がたくさん存在することを理解させ、芸術に対する幅広い視野を持たせる。	4	
	言語活動を取り入れ、表現意欲を育成させる。 創作、鑑賞能力を伸ばす。	・生徒の興味関心を引き出す教材を精選し、生徒が心から芸術を楽しむことができる授業を展開する。	4	
		・個性を重視した表現、技術、能力を生徒の段階に応じて育成する。	4	
		・生徒の発表会及び展示会を年間3回以上実施し、互いに切磋琢磨し合い、鑑賞能力を育成できるようにする。	4	
外国語	基礎学力の向上、応用できる学習態度を育成する。	・個の特性に応じた指導を実践する。定期考査と外部試験をととして生徒個々の4技能それぞれの特性を把握し、得意分野の伸長を図る。	4	4
	コミュニケーション能力の育成と定着を図る。	・自分の気持ちや意見をより多くのことばで伝えることのできるコミュニケーション能力を育成する。	4	
		・ALTとのチームティーチングと交流を計画的に実施し、英語ベースでのコミュニケーションに習熟できる環境を整備する。	5	
	英検とGTECへの取り組みの強化を図る。	・英検受験を積極的に勧め、GTEC対策等を利用してボキャブラリーとリスニングを強化する。英検では3級、準2級の合格者数を2倍にし、2級合格者を5名以上出す。	4	
家庭	被服における基礎的知識、技能の定着を図る。	・エプロンを作成することで、使用するミシン、その他、裁縫用具の名称・使用法を学ぶことにより、被服の基礎的知識と技能を身につけさせ、日常生活において実践できるように促す。	4	4
	食物における基礎的知識、実践的態度等の能力を育てる。	・調理実習を年に数回実施することにより、食品や調理の基礎的知識や技能を定着させ実生活に生かせるように指導する。	5	
		・グループで調理実習を実施することにより、お互いに協力して作業することの大切さを自覚するよう指導する。	4	
	学習環境の整備に努め安全に留意する。	・施設設備の安全と衛生管理を習慣化できるよう指導し、自ら事故防止に努めさせるよう配慮する。	5	
		・年5回以上AV資料を使用し、生徒が理解しやすい授業を展開できるように努める。	4	

※評価基準：5(十分達成：100～80%)、4(概ね達成：79～60%)、3(あまり達成していない：59～40%)、2(達成がやや不十分：39～20%)、1(達成が極めて不十分：19～0%)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題				
情 報	情報活用の実践力を養う。	・各種ソフト(Word、Excel、Powerpoint)の特性を理解させ、効率的に使用できる能力を身につけさせる。	5	4	来年度よりプログラミング教育の強化と情報Iの科目に移行していくことになる。2単位の授業の中でどのレベルまで生徒たちを進めていくか、効率よく授業準備を進めなければ目標まで届かないと感ずる。			
		・各自の目標設定を明確にし、進捗度を確認させる。	4					
		・各ソフトの基本的な操作方法の徹底を図る。	4					
		・資格取得の重要性を説き、効率的に検定受験ができるようカリキュラムの効率化を図る。	4					
		・通信ネットワークの重要さと特性を理解させる。	4					
	情報の科学的な理解を深める。	・情報化に伴う、モラルの大切さを理解させる。	4					
		・情報社会の根底の対人関係の大切さを理解させ、コミュニケーション能力を身につけさせる。	4					
		・情報化のメリット、デメリットを十分に理解させる。	4					
	情報社会に参画する態度を育てる。	・プレゼン用のソフトウェアを利用し、プレゼン練習とグループ学習の授業形態を確立させることで職業観を育成する。	4					
	工 業	社会人としての自覚や望ましい職業観・勤労観を育む。	・機械実習等の実技科目をとおして、工業技術の諸問題を解決させる技術、技能を育む。			4	4	ICT教育に関して、コロナの影響もあり、自宅でも授業ができるように設備が整ってきた。それを踏まえて、先進的にリモートでの授業の技術や内容が整ってきたが、まだまだ機材についてはたりないところがあるので、それをそろえていきたい。(web教材等)
・企業実習(夏季休業中)を実施し、より実践的な知識や技術、技能を身につけさせ、地域や産業界との連携を図り、職業観・勤労観を育成する。			-					
個性を生かす指導法を工夫する。		・基礎的、基本的な知識や技術、技能の育成を考慮した指導を行うとともに、技術革新の進展に応じた指導を取り入れる。	4					
		・ものづくり教育をとおして、生徒が自ら学び自ら考える力を育む。	4					
		・将来に生きる実技系資格など進路に沿った資格取得奨励を図り、主体的な進路選択や自己実現の育成を促す指導を行う。	4					
指導に生かす評価の改善をする。		・ICT機器を活用して、興味関心を引き出し分り易い授業展開に努める。	3					
		・観点別評価をとおして、その評価にもとづき指導方法の改善や工夫を行う。	4					
		・科目間の関連を踏まえ、座学および実習内容の連携を図った指導計画を作成する。	4					
学習環境の整備と事故防止教育に努める。		・適切な評価基準と多面的な学習状況把握を行い、実習におけるレポートの提出率100%および座学におけるノート提出等の課題提出率90%を目指す。	4					
		・教育効果が最大限に得られるよう、機械実習室の整理、整頓等を行い、適切な管理をする。	4					
		・実験・実習における施設および設備の安全と衛生管理に配慮し、事故発生件数が0件となる事故防止指導を徹底する。	5					
		工業化学・情報	一人一人に合った職業観と勤労観を育む。	・実技実習をとおして、工業技術の諸問題を解決させる技術、技能を育む。	4	4		
・企業実習を推進し、より実践的な知識や技術・技能を身につけさせ、地域や産業界との連携を図り、職業観を育む。				5				
・基礎的、基本的な知識や技術、技能の育成を考慮した指導を行うとともに、技術革新の進展に応じた指導を取り入れる。また、進学を志す生徒にも対応した教育課程の実現を目指す。				4				
個性を生かす指導方法を工夫する。	・社会性や規範意識を醸成させる工夫をし、主体的に問題解決に努め創造性を促す指導を行う。		4					
	・チームでの活動の大切さとコミュニケーション能力の向上を図る。		4					
	・進路に沿った資格、試験の取得奨励を図り、主体的な進路選択や自己実現を促す指導を行う。工業化学・情報科の生徒に1つ以上の資格を取得することを促す指導を行う。		4					
	・観点別評価をとおして、その評価にもとづき指導方法の改善や工夫を行う。		4					
指導に生かす評価の改善をする。	・適切な評価基準と多面的な学習状況把握を行い、実習におけるレポートの提出率100%や座学におけるノート提出等の課題提出率90%を目指す。	4						
	・ICT機器を活用し、通信ネットワークの利用と情報モラルの指導を行う。	4						
学習環境の整備と事故防止教育に努める。	・実験、実習において、十分な学習活動ができるように機器等の定期的な点検を実施し、施設および設備の安全と衛生管理に配慮し、事故発生件数が0件となる事故防止指導を徹底する。	4						

※評価基準：5(十分達成：100～80%)、4(概ね達成：79～60%)、3(あまり達成していない：59～40%)、2(達成がやや不十分：39～20%)、1(達成が極めて不十分：19～0%)

価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
工 業 電 気	地域の実態に応じた指導を行い基本的な学習活動の確立に努める。	・教材研究を常に行い、わかりやすい授業を展開し、知識の定着に努める。	4	ICT機器の活用や科目間の横断的な学習計画を教員の特性に依存することなく実施できるように、教材作成と情報共有の充実を図りたい。
		・各科目で小テストを月に1回以上行い、習熟度を確認することで、実態の把握に努める。	3	
		・ICT機器による視覚資料を有効的に活用し、生徒の興味や関心を高める。	4	
	電気を体系的に捉え、教科間が連携した授業づくりを行う。	・電気的な事象と理論の関係について理解を深めるために座学と実習の連携を図る。	4	
		・観点別評価をとおして生徒の実態を把握し、その結果を学習指導や資格取得に活かす。	4	
		・科内研修会を年に2回行い、教員としての資質、知識や技術の向上を図る。	4	
教 務	工業人としての安全管理意識や社会性を育む。	・実習や課題研究をとおして、危機管理を行い、安全を意識して活動するよう指導する。	5	・工夫のある授業への準備やHR運営の土台となりうる学習支援ソフトの導入を検討する必要がある。 ・各分掌に業務効率化の方策の提案・方策がとれる教員の配置。 ・ICT関係の教員研修を重ね、早期に共有データの一元化の実現を目指し、より多くの教職員が活用していくことができる環境整備が課題である。 ・図書及び放送委員の活動を増やす。
		・協働学習をとおして、意見の異なる他者と相互理解しようとする意識を育てる。	4	
		・ICT機器を活用した学習、AL型授業、個に応じた課題等の工夫した授業を各教科で実践してもらう。	4	
	授業力の向上、教科の到達目標達成を組織的に図る。	・各教科の授業参観を年2回以上計画実施する。	5	
		・生徒による授業評価の結果を授業改善に活用する。	4	
		・生徒による授業評価の結果を授業改善に活用する。	4	
	教職員間の連携により、円滑で積極的な教育活動を実現する。	・授業の初期指導の徹底を図り、思考力・判断力・表現力を育てる指導を行う。	4	
		・ICT機器を使用した、より高度な授業を可能にする環境整備を進める。	5	
特別活動	他分掌との連携を図り、最新の情報の広報を目指す。	・学年、各分掌と連携し、波メールHPなどを活用して、学校行事等の情報や配布文書、部活動等の情報を随時提供する。	4	3
	業務の時間短縮を図り、働き方改革を進める。	・分掌間の業務共有化を進め、共有できるデータを共有フォルダで一元化し、インデックスを作成、更新することで閲覧、作成作業をスムーズにする。	4	
	図書資料(書籍・教育用DVDなど)の整備と充実 図書委員会の充実と活性化 放送業務など視聴覚活動の活性化および視聴覚機器の充実と活用	・図書館利用の便宜を図るとともに、図書購入希望アンケートにより希望図書を募ることで、学校図書館として利用者の幅広いニーズに答えられる図書資料の購入を行う。	4	
		・定期的に図書館便りの制作・発行、および図書館での貸出・返却業務、書棚整理などを行う。	4	
		・機器の保守点検等を継続的にを行い、機器が常に正常に動作するよう努める。	4	
		・集会や式典において、放送担当としての役割を全うする。	4	
生徒指導	生徒会活動の活性化と学校行事の充実	・生徒会活動やHR活動の中で生徒の意思が反映され、創造力や行動力を伸ばすことができるよう支援する。	4	自主的な生徒会活動が出来るような体制づくりが必要である。学校行事に関しては、生徒一人一人が所属意識をもてる機会であると考えるため、徐々に再開していくべきである。
		・学校行事を通して、集団への所属意識や連帯感を深めさせる。	4	
		・学校行事の企画、運営が組織的かつ合理的に行われるよう、組織づくりおよび協力体制づくりを推進する。	3	
	部活動の奨励と学校生活の充実 積極的な広報活動及びボランティア活動	・1年生の部活動への加入を奨励し、全校生徒の部活動加入率80%以上を維持する。	4	
		・よりよいキャリア形成のためにフォーサイト手帳を活用し、学びのプロセスを振り返る機会を作る。	3	
		・学校行事・生徒会活動・ホームルーム活動および部活動等の様子を月1回以上ホームページで紹介し、本校の学校生活の魅力を地域に発信する。	3	
生徒指導	基本的生活習慣の確立を図る。	・生徒会新聞を年6回・生徒会誌を年1回発行し、生徒同士の情報交換や、外部への広報活動に役立てる。	3	3
		・生徒会新聞を年6回・生徒会誌を年1回発行し、生徒同士の情報交換や、外部への広報活動に役立てる。	3	
		・地元自治体と連携したボランティア活動を行う。	3	
	生活・交通安全教育の推進を図る。	・挨拶・身だしなみ・スマホ利用・公共マナーの指導を徹底し、社会に通用する規範意識を身につけさせる。	3	
		・社会の一員であることを自覚し、社会貢献のできる生徒の育成に全職員で努める。(マナーアップ運動・学校週番制度)	3	
		・家庭との連携を密にし、生徒・保護者・教員の相互理解に基づき、いじめの早期発見と適切な指導を行う。	4	
生徒指導	生活・交通安全教育の推進を図る。	・生徒心得に準じ、生徒・教員・保護者とともに、校則については見直し、点検を行い、問題行動の未然防止を図る。	3	・生徒指導は共通理解のもとで行わなければならないが現在では不十分である。 ・生徒指導部の人員が少なく、目標を達成するには難しかった。
		・登校指導、交通安全キャンペーンと自転車点検を年間各2回行い、事故防止に努める。	4	
		・外部講師による講話を年2回実施し、事故やSNS等による犯罪防止と、「命の大切さ」を学ぶ教育を行う。	3	

※評価基準：5(十分達成：100～80%)、4(概ね達成：79～60%)、3(あまり達成していない：59～40%)、2(達成がやや不十分：39～20%)、1(達成が極めて不十分：19～0%)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
進路指導	積極的なキャリア教育を实践し、将来にわたるビジョンをもたせるとともに、生きる力を身につけさせる。 地域に貢献しうる人材育成を目指す。	・将来の自分像を社会の中に適切に位置づけるための参考となるよう、地域・企業と連携したプログラムを企画し、実施する。	4	・省力化のために求人票のデータ化をハローワークと連携できないか。 ・特に6～11月の仕事量過多で捌き切れない。進路部員の人数が足りない。 ・模試のデータを活用した進路指導が課題。 ・進学者への未習内容を課外授業でフォローする取り組みを、組織的なものに組み込む必要性。(特に化学・物理) ・国立大学合格者を2年続けて出すことができたのは、指導技術の向上を示す大きな成果。
		・進学者の第一志望合格率90%、就職者初回応募内定率90%以上になるよう、時機に合った進路情報の提供と個に応じた面接指導や学習指導をする。最終的に進路決定100%を目指す。	4	
		・進路指導プログラムおよび授業、行事等が思考力・判断力・表現力を育てる場となるための改革を推進するとともに、教員の研修・研究のための情報分析・意見交換の場を設ける。	4	
	主体的に学習に取り組む姿勢を身につけさせ、学校全体としての学力の向上を図るとともに、進学実績を質的・量的に向上させる。	・実力(基礎力)診断テストアンケートの「学習意欲」において「やや高い」「高い」と答える生徒が60%以上となることを目指し、授業実践の改善や、朝学習、課外授業等の運営を支援する。	4	
		・各学年で学習合宿等を企画し、受験に向けて応用力を養い、大学受験に対応できる実践力をつけさせる。	4	
		・対外競争力を意識しながら生徒自らが学力の向上に努めることができるよう、外部の学力テストや模擬試験のデータを有効活用する。	4	
保健厚生	適正な事務処理をする。	・複数名の国公立大学合格者を出す。	4	・コロナの関係で活動が制限されてしまった。避難訓練は一回しか実施できなかったし、救命講習はできなかった。次年度はしっかり実施したい。 ・微熱の生徒の登校から新型コロナウイルスのクラスターが発生した。生徒・保護者・職員の連携と協力によって最小限の規模で終息した。この経験を次年度以降に活かしたい。 ・衛生委員会を年10回実施したい。
		・生徒の進路選択の幅を広げることができるよう、大学や入試に関する有効な情報を的確に、いち早く発信する。また、情報発信の方法を工夫して円滑に伝わるようにする。	4	
		・公文書、報告書、会計事務の処理を適正に行う。	5	
		・健康な生活を送るために、生徒が興味を持って取り組める健康教育の育成を目指す。	4	
	体系的・継続的に校舎内外の環境整備に努める。また、生命尊重を基とした安全対処能力の育成を図る。	・豊かな心で健やかに将来豊かな生活を送るための基礎を培う。	4	
		・がん教育、医薬品教育を取り入れ、生徒が自立して生きる力を身につける。	4	
		・各種講話(性教育、薬物乱用防止等)を外部機関と連携し、生徒に対し理解しやすい内容で実施する。	4	
		・保健だよりを配付し、生徒、保護者はもとより地域において学校保健啓発活動の充実を図る。	4	
	不登校、発達障害、特別支援の相談体制の充実に努め、特別支援コーディネーターやスクールカウンセラー、外部機関と連携しチーム学校として早期対応を目指す。	・安全点検を通し、環境整備を心がけ、事故の未然防止に努める。また、校舎内外の巡回を行い、早期に危険箇所を発見に努める。	4	
		・救命知識の普及のため、AEDを用いた救急救命講習の受講を積極的に働きかけ、第2学年で全員実施する。	3	
		・避難訓練を積極的に活用して防災体制の充実を図るとともに、生徒が事故災害発生時に生命尊重を基とした適切な行動がとれるよう指導する。また、避難訓練等の反省を踏まえ、危機管理マニュアルの見直しを行う。	3	
		・環境保護を考慮した積極的な環境美化活動の実践に努める。また各学年において奉仕作業を実施し、意識高揚に働きかける。	4	
	共通理解を深め、円滑な業務を实践する。	・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関と積極的に連携を深める。	4	
		・h-QUを行うことで、生徒の対人関係のあり方を知り、心的問題の早期発見や、サポート体制の確立等に活用する。また、各学年団と情報を共有する。	4	
		・教育相談だよりを通じて、生徒、保護者への広報活動の充実を図る。	4	
		・特別支援校内委員会を毎月開き、支援体制の構築を図る。事例によっては、特別支援コーディネーターが個別の支援計画を作成し、早急な対応に努める。	4	
渉外	地域との連携を密にし、地域に根差した学校運営に寄与する。	・円滑な業務遂行のため、幅広く職員の声を聞き、業務の見直しを検討する。	4	新たなPTA活動の形の模索。
		・部内の共通理解を図るため、部会議を毎月開催する。	3	
		・衛生委員会をととして、職員の健康管理、職場環境の改善に努める。	3	
		・PTA運営委員会を通じて業務の見直しをし、新たなPTA活動の形を検討する。	3	
		・学校のエデュケーションを理解し、協力してもらうための広報としての「まつかぜ」の工夫。	5	
		・学校のエデュケーションを理解し、協力・参加ができた認識できる保護者の数を増やす。	3	

※評価基準：5(十分達成：100～80%)、4(概ね達成：79～60%)、3(あまり達成していない：59～40%)、2(達成がやや不十分：39～20%)、1(達成が極めて不十分：19～0%)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題					
第1学年	基礎学力の定着と早期の進路希望決定に向けての支援の徹底	・主体的、積極的に授業に取り組む姿勢を育成する。	3	4	・タブレットを有効に使用し朝学習の充実を図る ・学年会議の回数を増やし、職員間の情報共有の徹底を図る				
		・義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るための学習機会を積極的に設け、家庭学習の習慣化を図る。	3						
		・3年間継続可能かつ体系的な進路行事を取り入れ、生徒個々に適した指導の充実を図る。	4						
	基本的生活習慣の確立と模範意識の育成	・服装頭髪指導等を通して適正な制服の着こなしや身だしなみについて、徹底を図るとともに、欠席・遅刻・早退の増加防止に努める。また、報告・連絡・相談を密にし共通理解を図る。	4						
		・学年集会における講話等を通して、交通マナー等社会生活において最低限必要な規範意識を育成するとともに、集団の中で自律的な行動がとれるよう働きかける。	4						
	人権尊重の精神に基づく人間関係の構築	・ホームルームや学校行事を利用して、自他の尊重に基づくクラス経営に努める。	4						
		・道徳の授業を通して、豊かな人間性の育成を図る。	4						
	生徒理解及び家庭との連携の重視、教員の多様な働き方の是正	・家庭との連携を密にし、いじめや問題行動の早期発見・未然防止に努める。	4						
・特に支援や配慮が必要な生徒について、教員間で情報共有し、共通理解を図る。 ・教員の業務分担を公平かつ適正に振り分け生産性・効率化の向上を目指し、長時間化する労働時間の是正に努める。		4 4							
第2学年	主体的な学習態度を身に付けさせる。 基礎学力の向上、学習習慣を確立させる。	・基礎力診断テスト・実力診断テスト・模擬試験等を実施し、自己の学力と課題を自覚させ、学習意欲を喚起する。	3	4	・朝学習の徹底 ・定期的に学年会議をもうけ、職員間の情報の共有を図る ・集団生活における個人の在り方の指導を徹底する				
		・学習環境の整備・美化を推進し、授業中の生徒の集中力を高め、理解の深化を図る。	4						
		・進学希望者に対し、志を高く持たせ、主体的に学習する姿勢を養うような指導を推進する。	4						
		・定期考査や資格取得に向けた計画的学習の推進に努め、自ら課題に取り組む姿勢を身に付けさせる。	4						
	基本的生活習慣を維持し、社会的ルールや道徳的習慣を尊重する態度を育てる。	・朝学習や授業開始時等の指導を通して、時間を守り、礼儀をしっかりとする姿勢を向上させる。 ・他人に接する態度や公共物の扱いに注視し、その場にあった適切な指導をする。 (昼休み巡視週1回当番制)	3 3						
		・部活動や学校行事で主体的に参加させ、理想的な人間関係の構築と自己理解を促す。(いじめゼロ) ・学年職員が連携し、生徒一人ひとりに手を掛けて、問題行動の未然防止に努める。	4						
		進路実現に向けた適切な職業観や知識を身に付けさせる。	・進路関係行事を実施し、進路実現の意識を高く持たせる。 ・生徒や保護者との面談をととして、生徒に対する理解を深め、適切な個別指導を行う。 ・面談指導や作文・小論文指導など入学試験や入社試験に対応するための指導を進路指導部と協力して手厚く行う。			4 4 4			
	第3学年		生徒個々の能力と目標に応じた学力の向上を図る。			・自らの課題と真剣に取り組むことを通して、社会人となるにふさわしい責任ある態度を身につけさせる。 ・生徒個々の特質を考慮した授業展開及び教室環境づくりを推進し、生徒の集中力の向上と理解の深化を図る。 ・進学課外の充実、入試対策に応じた個別指導等を通して、希望の進路を実現するための主体的な学習への取り組みを支援する。	4 4 4	4	・進学希望者への対応を計画的に考えていく必要がある。 ・各講座に関しては、1年間通して指導ができた。
社会規範や道徳を守ることの意義を理解し、自らの言動を律することのできる態度を身につけさせる。		・生徒それぞれの発達段階に応じて、社会規範や道徳を自覚した自律的な生活への移行を促す。 ・授業開始時刻前に準備を整えて着席するなど、時間を守る態度についての指導をさらに進める。 ・手帳を利用してメモをとらせる指導をこまめに行い、聞く態度や情報の管理など、社会人となってから役に立つ習慣を身につけさせる。		4 4 4					
		生徒全員が満足できる進路実現が達成できるよう支援する。		・生徒との面談や保護者との面談、三者面談を通して、生徒に対する理解を深め、適切な個別指導を行う。 ・大学・専門学校・企業等の情報を、各生徒に適切に伝達し、進路選択の幅が広がるよう工夫して個別指導を進める。 ・面談指導や作文・小論文指導など入学試験や入社試験に対応するための指導を進路指導部と協力して効率的に行う。 ・進学希望者は模擬試験を積極的に受験させ、入試に対応できる実践力を養う。	4 4 4 4 4				
事務			経費削減による施設・設備の充実化	・ペーパーレス化による用紙、光熱水費(電気・水道)等の削減及び物品の購入時における集中発注による応利率の向上を図り、学校運営費予算の削減をし、その削減分で老朽化した施設・設備の修繕等を充実させる。	4	4	運営費等について削減することが出来た。また、毎月施設の点検を行い危険個所の把握も出来たが予算の関係もあり修繕が遅れている所がある。継続して予算の削減に努め、老朽化した施設・設備の修理等を行っていく。		
			校内施設の適正な管理と安全確保	・学校内の施設設備等について、危険箇所・修繕箇所を早期把握と速やかな改善により安全管理を図る。					

※評価基準：5(十分達成：100～80%)、4(概ね達成：79～60%)、3(あまり達成していない：59～40%)、2(達成がやや不十分：39～20%)、1(達成が極めて不十分：19～0%)